

■ 犬パルボウイルス (CPV)

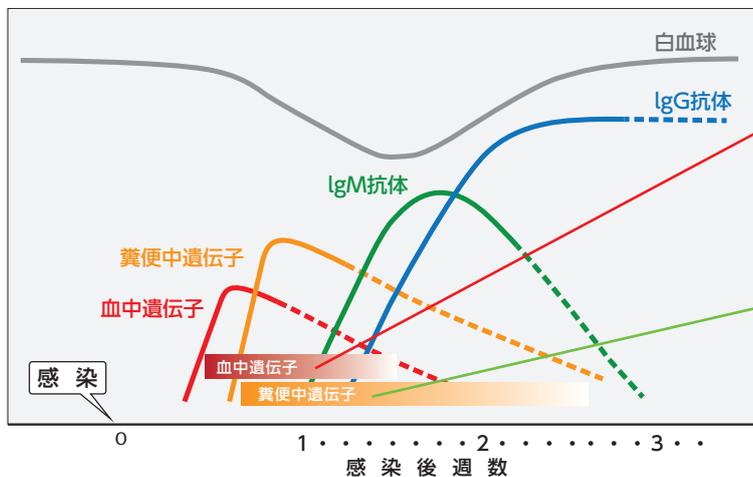
● ワクチン効果、防御能の判定には犬ワクチンセット (18ページ参照) をご利用ください。

★検査材料は遺伝子専用としてお送りください。遺伝子以外の項目と重複している場合は必ず遺伝子用に材料を分けてください。

項目名	検査材料	送付方法	所要日数	検査方法	検査項目の説明、注意事項
CPV 野外株遺伝子★	 糞便 適量 全血 血清(血漿) 0.4mL	常温冷蔵	4日以内	PCR	<ol style="list-style-type: none"> 1. CPV 野外株を高感度に検出します (抗原検査に比べ数百倍以上高感度です)。 2. CPV 野外株 (2a, 2b, 2c 型、いわゆる New タイプ) を特異的に検出します。 3. CPV 野外株と合わせて CPV ワクチン株 (オリジナル型) についても排泄の有無をチェックします。
CPV HI 抗体	 血清(血漿) 0.1mL	常温冷蔵	4日以内	HI	<ol style="list-style-type: none"> 1. CPV ワクチン未接種の幼齢犬 (4ヶ月齢以下) の場合のみ本検査での診断が可能です。 2. ワクチン未接種で以下の場合に感染が強く疑えます。 1ヶ月齢▶ 5120 以上 2ヶ月齢▶ 640 以上 3ヶ月齢▶ 80 以上 4ヶ月齢▶ 10 以上

【CPV 感染後の抗体、遺伝子、白血球数の変化】

一般的な推移を表したものです



血中遺伝子

糞便が取れない場合や、潜伏期 (発症前) の確認をしたいといった場合は血液での遺伝子検査をお勧めします。

糞便中遺伝子

白血球数が低下している、下痢症状があるなどの場合は糞便での遺伝子検査をお勧めします。